

平成21年 6月 30日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18730318

研究課題名（和文） キャプション入力の専門性についてのアクション・リサーチ

研究課題名（英文）

Action Research about technical competence and profession of captioning

研究代表者 安倍 尚紀（ABE NAOKI）

東京福祉大学・教育学部・講師

研究者番号：90401710

研究成果の概要：

研究期間中、9本の論文、18本の学術発表をおこなった。記録について、あるいはオーラルヒストリーという調査方法論まで、情報社会に関連するという意味では本研究の成果である。調査期間を通して得られたデータは膨大なものとなった。「キャプション入力の専門性」に焦点を当てた通時的・共時的な比較分析については、今後、数本の論文にまとめるべく、執筆中である。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2006年度 | 600,000 | | 600,000 |
| 2007年度 | 500,000 | | 500,000 |
| 2008年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 1,600,000 | 150,000 | 1,750,000 |

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード： アクション・リサーチ、情報保障、キャプション

1. 研究開始当初の背景

聴覚障害を持つ人を中心に、文字情報（以下キャプションと表記）による情報保障は重要であるにもかかわらず、社会福祉分野の研究を中心として、これまで日本ではほとんど見落とされてきた。

2. 研究の目的

本研究の大きな目的は、日本におけるキャプション入力の専門性について現状調査をおこないつつ、さらには単なる記述にとどまらない社会学的介入をめざすことであった。これによって、産業としてのキャプション入力を阻害している諸原因を特定し、あらゆる

場面で音声のかわりにキャプションを欲している聴覚障害者の福祉に資するのみならず、社会の「ユニバーサル・デザイン」化に貢献することが目的であった。

3. 研究の方法

(A) パソコン要約筆記、(B) 裁判所の速記、(C) テレビ字幕業、(D) ネット上のキャプション入力コミュニティについて (D) については平成19年度から)、コミュニティ形成や人材育成を中心にデータ収集をおこなった。郵送やインタビュー、文書資料による調査が中心である。

調査期間を通して得られたデータは膨大なものとなった。「キャプション入力の特長性」に焦点を当てた通時的・共時的な比較分析については、今後、数本の論文にまとめるべく、執筆中である。

4. 研究成果

インタビューや一次データ、資料収集など、調査期間を通して得られたデータは膨大なものとなった。三年間を通して、キャプションをめぐる社会状況については、かなりの変化があった。「キャプション入力の特長性」に焦点を当てた通時的・共時的な比較分析については、今後、数本の論文にまとめるべく、執筆中である。アクションリサーチや情報社会に関する成果は、執筆中の単著に反映する予定である。また、コミュニティ形成や人材育成といった重要テーマについては引き続き調査を続けたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ① Namba, C., Gotoh, H., Abe, N. (ほか7人。第三著者), 2008, A Trial to Establish an Archival Finding Aid Utilizing the Encoded Archival Description, Annual Report of National Institute for Fusion Science April 2007—March 2008, p398
- ② 安倍尚紀、加藤直子、2008、「組織的に体系化されたオーラルヒストリー」、『日本オーラル・ヒストリー研究・第4号』、pp65-84
- ③ 五島敏芳、安倍尚紀、2007、「基盤機関アーカイブズ共有化の現状と今後の課題」、『共同利用機関の歴史とアーカイブズ2006』、pp5-16
- ④ Gotoh, H., Abe, N., (ほか7人。第二著者), 2007, “A trial to establish database by the use of EAD”, Annual Report of National Institute for Fusion Science, April 2006 - March 2007, p 408
- ⑤ Fujita, J., Abe, N., (ほか7人。コレスポンディングオーサー), 2007, Complementary Study of nuclear Fusion Archiving by mean of Oral History, Annual Report of National Institute for Fusion science, April 2006—March 2007, p410
- ⑥ 安倍尚紀、2007、「日本における文字情報

の現状」、『全要研ニュース No. 258』全国要約筆記問題研究会、pp10-15

- ⑦ 安倍尚紀、2007、「情報保障における立脚点としての文字メディア」、『情報教育研究会講演論文集』、pp604-607

- ⑧ 安倍尚紀、2006、「アーカイブズ共有化計画」、『共同利用研の歴史 2005』、pp3-8

- ⑨ Abe, N., 2006, “Study on Summarized Captioning via Computer Assistance”, Interdisciplinary Information Science Vol. 13, pp1-10

[学会発表] (計18件)

- ① ABE Naoki, 2008, “Archives and reflexivity in the modern society Archives and reflexivity in the modern society”, International Institute of Sociology at Hungary, Central European University, 2008年6月28日

- ② 安倍尚紀、2008、「アーカイブズと社会の再帰性」、日本社会学会 関西研究例会、神戸大学 2008年4月5日

- ③ 安倍尚紀、2008、「社会学によるアーカイブズ論のための基礎的考察」、国文学研究資料館プロジェクト研究会、国文学研究資料館 2008年3月6日

- ④ 安倍尚紀、2007、「オーラルヒストリー～社会としての実践をとおして～」、現代経営学研究会年次大会、箱根静雲荘 2007年12月26日

- ⑤ 安倍尚紀、2007、「『格差社会』におけるオタク的メディア文化」、日本ジェンダー学会・AGIA 共催コロキウム、東北大学川内キャンパス 2007年12月22日

- ⑥ 高岩義信、関本美知子、三浦靖子、菊谷英司、難波忠清、松岡啓介、寺嶋由之介、大林治夫、藤田順治、木村一枝、花岡幸子、平田光司、五島敏芳、木村克美、安倍尚紀、2007、「大学共同利用機関アーカイブズ史料目録データベースの共有化」、日本物理学会第62回年次大会、北海道大学札幌キャンパス 2007年9月21日

- ⑦ 安倍尚紀、2007、「科学・技術分野におけるオーラルヒストリーの方法論的な諸問題」、日本オーラルヒストリー学会第5回年次大会、日本女子大学 2007年9月15日

- ⑧安倍尚紀、2007、「情報社会の記述」、東北社会学会年次大会、東北福祉大学 2007年7月22日
- ⑨安倍尚紀、2007、「情報保障における立脚点としての文字メディア」、情報処理教育研究集会、広島大学 2006年11月25日
- ⑩難波忠清、松岡啓介、寺嶋由之介、大林治夫、藤田順治、高岩義信、安倍尚紀、五島敏芳、木村一枝、花岡幸子、2007、「核融合アーカイブズデータベースの共有化」、プラズマ・核融合学会第23回年会、筑波大学 大学会館 2006年11月28日-
- ⑪安倍尚紀（共著）、2007、「オーラルヒストリーと社会学研究」、第79回日本社会学会大会、立命館大学 2006年10月28、29日
- ⑫加藤直子、安倍尚紀、2007、「組織的なオーラルヒストリー実践に関する諸問題」、日本オーラルヒストリー学会、東京外国語大学 2006年9月24日
- ⑬Abe N., 2006, Interface between Human and Archives, European Association for the Study of Science and Technology, Swiss, University of Lausanne 2006年8月25日
- ⑭安倍尚紀、2006、「現状の課題と趣旨説明」、研究会「研究機関における資料目録の符号化」、東京八重洲ホール 2006年8月4日
- ⑮松岡啓介、難波忠清、木村一枝、花岡幸子、寺嶋由之介、大林治夫、藤田順治、狐崎晶雄、植松英穂、安倍尚紀、水内亨、2006、「大学における核融合アーカイブズ」、第6回核融合エネルギー連合講演会、富山国際会議場 2006年6月13日
- ⑯安倍尚紀、2006、「ハッカー倫理と R. ストールマンの思想」、葉山セミナー、総合研究大学院大学先導科学研究科 2006年5月16日
- ⑰Abe, N., 2006, Best Practices and Goals: ? technologies for interviews, Workshop for Study of “Inter-University Research Institutes”、総合研究大学院大学 2006年4月25日
- ⑱安倍尚紀、2006、「アーカイブズ共有化計画の現状」、「共同利用研の歴史」プロジェクト全体会議、総合研究大学院大学 2006年4月24日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安倍 尚紀 (ABE NAOKI)
東京福祉大学・教育学部・講師
研究者番号：90401710

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし